

ウォーターワールド

スイスイ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

水の個性を持つ子が色々頑張るお話

TS転生とか書いてあるけど、ほぼほぼ関係ない。

第1話

目次

1

第1話

俺は……あ、私は転生者だ。

トラツクに轢かれる

実は神様の手違いでしたー

お詫びに能力与えて転生させてあげるね。

この程度でもだいたいのがあらましが理解出来てしまうほどのテンプレ転生。

転生先は僕アカの世界らしい。

だけど原作内容はよく知らない。

後なんか女の子になってるし。

まあ、そんな状態でスタートした転生人生。

両親はヒーロー。夫婦でウォーターホースって名前で売ってる

親の従兄妹にはワイルド・ワイルド・プツシーキャッツのマンダレイもいるヒーローの家系。

ちよっと目付き悪いけど可愛い年の離れた弟は、洗汰っていう名前で、ちよっと目付

きが悪いけどめっちゃ可愛い。

今年で3歳になる。

最初こそ転生で女で……少し戸惑う事もあったけど、超常社会においては少し戸惑う位がまともな感じ。

そうそう、私の名前は出水 瀬奈。現役のJ C

個性は水を出したり操ったりする個性

弟の洗汰みたいに量は出ないタイプだけど、その分操作に対する自由度が高い。

高圧で噴射も出来るし、鞭のようにうねうねと動かす事もできる。

出した水を凍らせたり蒸発させたりと自由自在。

ちなみに弟の洗汰は2歳の時に発動して、それはそれはびっくりするくらい量の水を出した！

さすが洗汰よ！

ただし2人とも調子に乗って使いすぎると肌がカッサカサになる。

お肌の保湿ちよーだいじ。

今日は両親がオプデーなので私は両親に個性の特訓をして貰っている。

洗汰はしーねーちゃん達プッシーキャツの面々が面倒みてくれるみたいだ。

しーねーちゃんとはマンダレイの事。間違ってもおばさんなんて言うてはいけない
(震え声)

ちなみに、もし地雷を踏んだら、私有地でもある山の中にポイされる(体験談)

んでまあ、特訓に戻るわけなんです、特訓の内容と言っても個性有りの組み手をするだけ。

基礎的な事は全部教わったし、両親のアドバイスと前世に残る微かなファンタジー知識から自分なりの必殺技も編み出した。

「瀬奈は強いわねえ……」

組み手が終わると親バカモードの両親に相槌打って、今日の特訓は終了。

しーねーちゃんの所から帰ってきた洗汰と一緒に晩ご飯にお出掛け。

ヒーローの両親は稼ぎもヒーローなので、それはそれは美味しいお寿司です。回りません。回らないお寿司なんです。

お寿司を食べて帰宅途中……

「来週は2日も休みが取れたから、みんなでU◎Jいこうか(きましよう)！」

お父さん達からナイスーな提案。

「やったー!!」

私たち家族は、両親ともに多忙な日々を過ごしているけど、仲が良く、ずっとこんな日が続くと良いなって思ってた。

明日からお父さん達はお休みで、U◎Jに行くから弟の面倒をみながら準備をしていた時、1本の電話が鳴った。

「洗汰、ちよつと待っててね。」

「はい」

電話を取る。

「はい、もしもし。出水ですが……」

『瀬奈? 私よ。よく聞いて……』

しーねーちゃんからだ。何の要件だろう?

「うん。何……?」

『……』

『……!!』

『……』

「」

ガチャン。

力なく、受話器を置いた。

「おねーちゃん。何だったの？」

不意に、力いっぱい洗汰胸に抱いた。

「おねーちゃん痛いよ……」

「あのね、洗汰……明日U◎J行けなくなつた……かもしれない……」

「え？何で？何でなのおねーちゃん！」

より一層強く抱きしめる。

「お父さんとお母さん。ウォーターホースは……死んじやつた。」

しーねーちゃんから来た連絡。それはマスキュラーという敵にお父さんもお母さんも殺された事。

ウォーターホースの殉職の知らせだった。